



## 音楽との出会い

---

月並みに幼稚園からピアノを習い始めて音楽と触れ合いはじめ、  
小学校中学年で、少年合唱団へ入団。

どちらも姉の影響、というか、なんとなく、というか。

妹、ですからね私は。

好きでも嫌いでもなかった、が本音。

しかし、この“姉”という年長者の存在は大きく、おかげで、周りの友達よりも早く洋楽と遭遇したのだ。

特に、ビートルズ、カーペンターズは小学校低学年から本当によく聴いた。

また、両親が大好きだった“懐メロ”も本当によく聴いた。

多分、その時代に流行った歌謡曲より、よく聴いたと思う。

芸能が大好きな両親は、

東海林太郎、藤山一郎、霧島昇、近江俊郎、ディックミネ、淡谷のり子、高峰三枝子...

果ては市丸、神楽坂はん子など、枚挙にいとまないくらいの歌手たちによる

ベスト版デラックス2枚組LPを堅実にコレクションしていて、よく聴かされたものだ。

昔の曲は、旋律がきれいで、時々びっくりするような斬新なアレンジを発見したり、詩もいい。

聴かされていたというのは事実だが、私は少なくとも嫌いどころか、今でも大好きだし、

この懐メロ、その後のムード歌謡みたいなジャンルの音楽をたくさん聴いたことは、

私という人間のキャラクター形成と音楽の好みを左右する、案外大きなキーワードかもしれない

。

今思えば、イキな？家庭で、私たち姉妹が寝ている部屋にレコードプレイヤーがあり、  
朝はレコードをかけて起きていた。

たまにターンテーブルに、LPではなく、EP（ドーナツ版）がのっけてあるのに、

母は、すまして針をテーブルの端っこに落として（つまりLPと同じ位置に針を落とす！）

行ってしまうので、“ザザザザ”というオソロシイ音を聴いて目覚めたものだ。

“本当に衝撃的に音楽と出会った”と思ったのは、小学校5年生のとき。

当時アイドル的人気を誇っていたギタリストCharが、地元福岡のFM局で30分番組

「Charのセンセーショナルロック」のDJをやっていて、それをはじめて聴いたときだ。

あの時自分の中に感じた、まさにセンセーショナルさは、いまだに忘れられない。

今も、当時のオンエアを録音したカセットが残っている。

ボズ・スキャックス、EW&F、スティービー・ワンダー、ジェフ・ベック、

ジミ・ヘンドリックス、シカゴ、リトル・フィート、オールマン・ブラザーズ、

ピンク・フロイド、スティーリー・ダン、フランク・ザッパ、マハビシュヌ・オーケストラ、

ウォー・・・

ロックからクロスオーバー、ソウル、A O R、まさにフュージョン真っ只中。  
確か、私をはじめ聴いた放送の1曲目は、E W & Fの「MightyMighty」だった。  
アル・マッケイのギターリフ、今まで聴いたことのないような音楽。  
その後もCharファンだった私は、この番組を通して  
彼が好きだというミュージシャンのフォロワーとして音楽にのめりこんだ。  
サクソプレイヤーの音楽原体験は、ジャズという場合がほとんどだろうが、私は全くそうでは  
なかった。

## サククスとの出会い

---

そういったフュージョンブームの最中、渡辺貞夫さんが、大ブレイクした。

あの「カリフォルニア・シャワー」の頃だ。

記憶が前後するだろうが、貞夫さんは草刈正雄と、「ブラバス」のCMに出演されていたし、本当にカッコよかった。

サククスなんて楽器は、ブラスバンドで使う楽器、程度の知識しかなかったが、そこで私は初めてサククスという楽器を認識した。

小学校6年生だったと思う。

ところで、それより以前に私は、Charの番組を聴いたとたん神の啓示を受け、

「私の人生はこれしかない」と人生の舵取り方向を、断固決めてしまった。

決めてしまってから、ならば何をしようか、と思ったのだ。

普通は、逆だろうが！！

体育会系少女だった私は、

コマネチ！！に憧れて始めた体操のために、

それまでやっていたピアノも合唱団もさっさとヤメテしまっていた。

だから音楽をやるために何をやればいいのか、考えなければならなかった。

何せ、やっていたことが好きで好きで、とか、メキメキうまくなって、で、

その果てにプロを目指しましょうというのとは違って、先に野心あり。

自分が音楽で成功するには、何がいいのか、と考えた。まさに戦略。

ピアノは、嫌いではないけれど、座ってやる楽器はいやだな、

ギターは全く弾けないし・・・ウタはたいして上手くないし、第一自分の声はよくないし。

そこに、貞夫さんの登場。「これだ！」

サククスなら、ステージの中央に立てるし、目立つ。

縦笛は、“上手い”といつも褒められていたから、吹く楽器はいけそうだ。

何より、女性プレイヤーがいないではないか！！！！

私が、サククスと出会った、というより、選んだ一番の理由はこれに尽きる。

別に、好きでもなんでもなかった、のだ。

負けずぎらいで、自己顕示欲の強いオンナの、人生の選択だった。

私は、女性が進出していない分野で、パイオニアになりたかった。

どうしても。（その後、多くの先達がいらっしゃることを知るわけだが）

その後、高1のクリスマスに、両親を説得してアルトサククスを買ってもらった。

これまでの娘の人生に、ほとんど何の関わりもなかったサククスという楽器を、

両親はキツネにつままれたような気持ちで、買い与えたに違いない。

（キツネにつままれた人っているのかな！）

高校の吹奏楽部を見学に行き、サクソ担当を希望したが、  
“ウチはサクソにオンナは入れないんだよね”の先輩の一言にカチン。  
九州の質実剛健の校風を誇る県立高校には、明らかに男尊女卑が横行し  
旧大全としている部分があり、このことに私は大いに抵抗、職員室通いの日々を過ごすことにな  
った。

余談だが、高1から受験体制を敷く超進学校のこの高校で、  
自分の意志で大学進学をしなかったひとりかふたり？のうちのひとりがこの私だ。  
どの補習のクラスにもいっさい参加せず、  
高3の後半などはどこのクラスにいてもお邪魔なため、図書館で自習。  
本当は音楽室でサクソの練習をしたかったのだがそうもいかず、  
唯一好きだった語学の勉強をした。  
それはスペイン語。  
理由はわからないが、好きだったのだ。  
英語にしておけばよかったと今では少し悔やまれる（笑）

サクソのほうはというと、  
個人レッスンで先生を探したり、ヤマハの教室に通おうか、などしたが、  
通学距離の問題もあり、独学することに。  
距離の問題、と言ったけれど、ウチの隣には、キャバレー「月世界」があり、  
店のプレイヤーが出入りする古い管楽器屋さん、近所にあり、  
また、有名なジャズ喫茶も、通学路にあり。  
その気になれば恵まれた環境だった。  
今でこそ信じられないが、ものすごく人見知りで人一倍怖がりの私は  
そういう環境をまったく利用しなかった。  
知らないことを“知らない”と言えるプライドが足りなかった。子供のくせに。

さてここまでの文章の中で、“サクソといえば、ジャズでしょう”  
というくらいの密な関係、ジャズ、という言葉は一度も登場していない。  
サクソを独学で吹き始めた頃、知り合いにチャーリー・パーカーのレコードを貸してもらっ  
たが、  
何がいいのかさっぱりわからなかった。  
第一そういう音楽が好きになれなかった。  
好きなのは貞夫さん。  
けれど、それ以上ジャズに興味をもつ、ということが本当になかった。  
勉強のために聴いていたけれどね。  
この頃コルトレーンはコピーしはじめていたが、好きで好きでという理由ではない。  
今でも、私はそういう意味でとても不勉強だ。

私にとっての音楽ルーツは、ジャズよりロックだ。

練習ももっぱら、ジェフベックをコピーしてみたり、

当時はやっていたTOTOや高中正義（やはり私はギターミュージックが好きだった）を一生懸命サックスでコピーした。

サックス奏者としては、変わった出発点だけれど、

しかしこのことは、自分のサックスプレイに役にたっていたのだと、最近改めて感じる。

ギター特有の音の並び、みたいなものを、無意識に体得できたのはとてもよかったが、

サックス特有の泣きや節回しなど、エモーショナルな表現力のなさも、際立っていたかもしれない。

だって、サックス奏者のコピーなど、好きでやったのは、貞夫さんくらい。

それと、子供でも比較的フレーズが採りやすかったから...ということで、

当時大人気だったグローバーワシントンJr.とかね。

ほとんどサックス的影響を受けずに、サックスをただただ吹いていたのだ。

今でも、私はなぜサックスを吹いているのだろうと不思議に思うことがある。

サククスを買ってもらおう...それから...

---

最初に買ってもらった楽器は、YAMAHAのYSナントカっていう（ごめんなさい、いい加減で）10万円くらいのものであった。

じゅうまんえん、高かっただろうなあ。

高1のクリスマスだった。

子供のためとはいえ、よくもまあ、10万円を出してくれたものだと思えば頭が下がる。私にはできない（かも）

高校卒業後上京し、某音楽院に入学。

84年の春だった。

この頃から、東京には音楽の専門学校なるものができ始めていた。

まさにアテも何もなし。

唯一、東京に就職した姉と二人、というのは心強かった。

学校に通いだしてしばらくすると、“プロ目指すなら、その楽器じゃあどうかな”みたいなことも指摘され、

今度はセルマーのスーパーアクション80という機種に一気にグレードアップ。

30数万円くらいだった。

それから、19年間アルトサククスはひたすらこの楽器で通した。

誰もが憧れるアメセル（アメリカン・セルマーの略 要はビンテージの高い楽器）は、なかなか買えなかった。

スーパーアクションを買った1年後、ウェイン・ショーターと出会ってしまい、

どうしてもソプラノが欲しくなり、やはりスーパーアクション80を35万円くらいで買った。

2本買える訳ないから、この後5年間、ムリなローンをひたすら払いまくるキビシイ生活だった。

同居していた姉のサポートのおかげ以外に何があるだろう！

このソプラノは今日までずっと吹いている。

アメセルなど、いいものを探せばいろいろあると思うが、そういった欲はあまりないほうだ。

良くも悪くも執着がないというか。きっとプロとしては、失格なのでしょうね。

テナーも96年に、スーパーアクションシリーズIIというのを買った。40万円くらいだった。

悲しかったがこの楽器、2002年にどうしてもどうしても欲しかったアルトのアメセルを買うために売ってしまった。

そして手に入れたのはマークVI シリアル番号6万番台。

オールドのヴィンテージだ。

さすがに良い音だったが、それでも本当に良い音を出してくれたのは3年後くらいだった。

しかしかねがねある時点で一線を引き、

テナーサククスに転向したいと思い続けていた私に転機が訪れた。

たまたまコンタクトを取ってきた、ある楽器メーカーの営業マンの方を面白いなと感じ、

試奏を引き受けたのだ。

私がアルト吹きなので、多くのアルトを持ってきてくださったのだが、  
実はこの頃私は自分自身のアルトに限界を感じていて（あ、楽器でなく、能力に）  
興味が失せつつあったため、試奏もそれほどの情熱がない。

このメーカーは世界にそのブランド力を誇るセルマー、  
さらに国内メーカーではヤナギサワ、ヤマハといったいわゆる手堅いブランドメーカーに比べると

認知度は低いし、歴史も比較的新しかった。

だからこそ、私もセカンドだというイメージがあったのだ。

吹いたアルトはどれも吹きやすくよくできている、しかもこの安さは！  
正直驚いたが、自分でアルトを買おうとは思わない。

『今日は申し訳ないけどこれで...』と言おうとして、  
そういえばテナーを1本持ってきてと頼んだことを思い出した。  
そしてその1本が、自分に無理なく吹きやすく、ほどよく明るく、  
吹くことに全くストレスを感じない、まさに自分の体力と能力にピッタリフィットした楽器だったのだ。

吹いても吹いても疲れな。

そしてこのことをきっかけに、テナーに転向することにして、今日に至っている。

まだまだ巧くなれないけど。

でも単純に吹いていてラク。

ムリをしない。

これはとても大事なことだ。

安かったし！！

それがカドソンというメーカーだ。

それなりに楽器を評価できるようになったのは、ここ2年くらいかもしれない。

自分のクセ、吹き方、音の好み、イメージ、また、客観的な立場で、何をポイントに  
自分（またはある人）にとって良い楽器かということへの見極めができるようになったと思う。



## 楽器選び

---

楽器を選ぶときのポイントは、月並みだが、

- 1.自分のパートナーとしてふさわしいか、と
  - 2.何を優先してプライオリティをつけるか、
- の主に2点だと思う。

高い楽器だからいいかということ、確かにいいが、高いということでムリをするとよくないかもしれない、とかいろいろあると思う。

値段はいくらでも、とか高くてもいいものを、のパターンはこの際、論外にし、限られた予算の中でいかに勝負するか、というパターンかつ、「初めての購入」のアドバイスに徹しよう。

### <サククスを買う>

1. サククス本体
2. マウスピース
3. ケース
4. リード
5. ストラップ
6. 掃除用具
7. リードケースなど小物

サククスを買うということに、これだけのコンテンツが含まれる。

実は、1~6まではセットとして一式購入できる場合がほとんどであるが、

予算内でもう少しこだわって、パーツをカスタマイズしてみたい。

一式とは、すべて標準型のパーツがセットされている、ということ。

たとえ初心者だろうが、楽器をはじめてほんのちょっとだろうが、

こだわるべきところは、絶対にあるのだ。

### 1.サククス本体

好きなのを買ってください！

欲しいものがいいのです！！

ただ、とりあえずと思ってあまり安い楽器を買ってしまうと、

修理しなくてはいけなくなったときに、修理してもらえないこともあって困ってしまうことも。

まあ・・・修理代のほうが高くつくって意味で。

最近はYAMAHAをはじめ、楽器のレンタルというサービスもやっているのも、

踏ん切りがつかない方には最初はしばらく借りてみて、というのをすすめています。  
高い買い物ですものね。  
レンタル・・・いいと思います。

## 2.マウスピース

楽器のメーカーにもよるが、セルマーC\*（シースター★）、ヤマハ、ヤマギサワ、オットーリンクなどがついている場合が多いと思う。

初心者には吹きやすい“標準的”なものだ。

材質はハードラバーといって黒色の硬いラバー製だ。（笑）

しかし、もう最初から貞夫さんが好き、とかジャズが好きとか、

ああいう音がいいとかイメージがある場合は、

コントロールが難しくないタイプのもので、お店の人にオススメをきいてみるとよい。

ムチャしなければ、私はある程度好きなものを買うことはいいことだ、と思う。

できれば、そのムチャをせず、その人にフィットしうるものをアドバイスできる人がそばにいるとよいが。

貞夫さん愛用のメイヤー5番はやはりジャズの音がするし、吹きやすい。

私は、もう少し黒っぽくやんちゃな音も好きなので、メイヤーの6番も好きで、長く使っていた。

私の生徒さんで、まだ楽器のキャリアは短いけど、太い音を出し、

ブラックミュージック大好きという人がいるが、彼にこの6番を勧めた。

試奏時、5番と吹き比べながら、“ボクは素人だからわからない”と謙遜しつつも

“5番より丸くて豊かな音が出るような気がする。”

息の通りは、5番よりキツイような気がするから、今はコントロールが苦しいけれど、

自分にはこういうファンキーな感じが似合うと思うし、イメージに近い。

マウスピースによってこんなに音が違うのですね“ だって！

ねっ！

“わからない、知らない”といいながらこれだけわかっている。

反応は人によるけれど、こういう時、私は心から嬉しくなる。

標準セットはパーツの値段込みだから、マウスピースの料金も含まれる。

このように特別チョイスすると、別料金になってしまうが

プラスαでいくらぐらいまでという枠の中でいけそうなら、是非検討してほしい。

## 3.ケース

サクスは重い。でも本当に重いのは実はケースだったりする。

移動は100%クルマです、なんていう人以外は、自分の体を歪ませないためにも、

重い思いをしてイヤにならないためにも、自分の移動&行動パターンにあったケースを選ぼう。

標準セットは、箱型のハードケースだ。

ハードケースは、丈夫だし小物を入れたり、の収納部分も充分だが、何せ重い。

最近のケースにはストラップもついているので肩から下げられるから、まだラクだけれど、手に持つのはシンドイ。

電車移動などが多かったり、また会社帰りにレッスンにいかなくてはならないとか、満員電車に乗ることも、なんて場合は、肩から下げるゴルフやテニスバックのようなフライトケースがいい。

フライトケースも素材や形状により価格帯も幅広い。

1~4万くらいまでが相場か。

ケースの厚みがないと軽くていいが、安全性は下がるし、やはり倒したり、ぶついたりといった時は頼りない。

しかし、、不可抗力であろうが自分の不注意であろうが、

落としたりぶついたりしたときは、高価なケースに収めていても怪我をする！ときはハデにってしまうもの。

要はやはり自己責任なのだ。

楽器をおさめる部分に敷かれているクッションの良し悪しなどをみて、

できるだけ安全性を重視したい、ということを勧めながらも、

安くてもそんなリスクを理解した上で持ち歩けばいいのではないか。

かくいう私のテナーケースは4ケタ製品だ！

(その後5ケタに昇格したけれど...)

#### 4.リード

一式セットには、5枚ほどリードがサービスでついている場合が多い。

別にせめて1箱買っておこう。

ヴァンドレン、リコーなどのメーカーがとりあえずオススメだが、これはあくまでとりあえず。

自分であれこれ試して、本当に自分に合うものを探すといい。

まったく個人的な趣味ですが私はヴァンドレンの青箱はススメない。

音をきれいに鳴らせるリードだけど、“まとまっちゃってて(笑)”なのだ、私にとってはね。

ま、お店の人などにきいてみてほしい。平均1箱で2000円くらい。

もちろん値段の幅はあり。

#### 5.ストラップ

一式セットにはいっているが、これもできれば少しいいものを別に買ってほしい。

ストラップによって首の疲れ、負担がかなり変わるし、フォームがよくなって吹きやすくなったなんてことも。

サクソ本体にひっかけるストラップの金具は、脱落防止機能つきフックのものを選ぶとよい。

ただひっかけるだけのものだと、金具から楽器が脱落したりすることもあるのでご注意ください。

私自身は、頸椎の疾患があるため、細いストラップは御法度だと医者に言われ、なるべく幅広のものを愛用している。  
夏は少々ムレてしまうが。  
2000~1万円くらいまでいろいろ。3000円以上くらいのであればバッチリ。

## 6.掃除用具

サックス使用后、管の中のツバ、ゴミの掃除用品。  
ある程度のものが付いている場合は問題ないが、  
ついてない場合は、管本体のベルの中に入れて、  
ツバの水分を拭き取るスワブというものを購入すると良い。  
できればネック用のミニスワブクロス、  
さらに、指でおさえるキーの水分を取るペーパーなどもあれば便利！だとは思うが、  
私は脂取り紙で代用、なんてお茶目なこともしている。  
その他、細かい部分のホコリを取るのに綿棒、  
さらに眼鏡のさやが緩んだときに締める眼鏡ドライバーは、細かいネジを締めるとき、本当に便利。  
最近リードも含め、これら一式を入れるのに便利な旅行用ポーチなんてものも、  
100円ショップで買えるし、まったく便利な時代です。

## 7.リードケースなど小物

リードケースは、箱から出したリードを筆箱のように並べてしまうもので、  
使用途中のリードだとか、選んだリードをまとめておける。  
価格は2000~3000円くらい。  
なくても、リードを買ったとき入っていたリードガードに戻せばいいのだが、  
あると便利だし、よく鳴る、気に入ったリードを並べておくためにも、守るためにもあればいいかと。  
しかし私はこれさえめったに使わない！  
使って洗ってマウスピースにつけ戻してキャップをはめる。  
マウスピースからはずさないって状態ですネ。

## 練習場所

---

サククスをはじめ、トランペット、トロンボーン・・・

管楽器奏者は、練習場の確保に余念がないことだろう。

私もそうだ。（特に昔はそうだった。）

昔は、防音室を家に設置できるなんて、ありえなかったし、

貸スタジオも、今みたいに数なかった。

私の上京後の練習場は、

1.多摩川河川敷

2.某大学のビッグバンドに助っ人参加するかわりに得た部室での年中練習権。

3.カラオケ屋

に大別できる。

1.は“若かった”からこそできた、恐怖の冬の寒さとの闘い。

現在、多摩川河川敷は、今のように草が刈られ、護岸工事がされ、

周囲に公演のような施設まであって、休日はバーベキューをする人たちで賑わう・・・

そんな場所だが、昔はとんでもなかった。

草伸び放題、川面は見えない。暗い、汚い。アヤシイオジサンがいっぱい。

私はアパートのすぐ前が多摩川で、野球場などもあったので、

人がいないときは、野球場のベンチで、野球の練習をしているときは

その奥の川原まで行って練習した。

暑い日も寒い日も、よく通った。

サククス担いで、譜面と譜面台とメトロノームを鞆に入れて、午後早い時間から

だいたい夕方の5～6時まで。

河川敷には、私をはじめ何人もの管楽器の人たちが、毎日所定の位置で、同じような時間に練習する。

対岸から聞こえて来るトランペットやサククスの音で、お互い顔も知らないけれど、

“あの人、今日も来てる！”とわかったものだ。

川越しに、相手の練習曲をアンサンブルしたりして。

野外練習の根性は、今はもうないけれど、天気の良い日はいい気持ちだった。

ロングトーンなど大きな音は思い切り出せるし、なんたってタダだから、

何時間でも練習できる。女性の私としては、トイレだけが困ったものだったが。

思い出話としては、

集中してロングトーンをやっていると、ついつい目をつぶってしまい、間近に人が近づいても全く気付かない。

ある時、ふっと目を開けると、すぐ横にあきらかにホームレスのオジサンが立っていた。

“ヤバっ”と思ったけれど、無視して吹いていたら、オジサン一言。

“ねえちゃん、矢切の渡し吹ける？”

これがまた吹けちゃったのだが、オジサン、とても満足そうに

“ありがとよ、寒いから頑張れよ”って。

私19歳頃の話。サクスを吹いて人に喜んで頂いた初体験だった。

またあるとき、河川敷で殺人事件があって、刑事さんがウチにも聞き込みにまわって来た。

その頃、練習中に別の“オジサン”が近づいてきて、いきなり私に何か怒っている。

最初はとてもコワかった。

説明が遅れたが、当時は草が伸び放題で、今ほど川全体の見通しがよくなくて、

場所によっては、本当にひとりきりになってしまうこともあったのだ。

気をつけてはいたけれど。

どうやらオジサンは、刑事さんに事件に関して厳しく尋問されたらしく、

そのことをとても怒っていて、愚痴を私にぶちまけたかったらしい。

コワかったが、しかたない。

頑張って話をきき、何だったか忘れたがやっぱり演歌を一曲吹いた。

そうしたら、“ねえちゃん、聞いてくれてありがと。サクスいいね。これとっときなよ”

といって100円くれた。

その100円は、私にとっては初めてのギャラ。

オジサンの気持ちがとても嬉しかった。

2は、大勢でアンサンブルするビッグバンドの楽しさ、チームワーク、

カウント・ベイシーはじめ優れた曲、アレンジ。そういうものに触れることができ、

また扇風機と石油ストーブのおかげで、年中快適に練習することができた。

期間にして約2年。一日中本当によく練習した。

先輩・後輩みたいな関係も経験したが、プロになった先輩もけっこういて、

キャバレーの仕事を紹介してもらったり、奏法のアドバイスを受けてたりした。

練習はひとりでもやるものだけれど、こういった組織の刺激や影響も大事だ、と思う。

“みんなで音楽やるのってサイコーに楽しいよね”そう思った最初の場所かもしれない。

3は、現在に至るまで各地を転々として練習場にしている。

カラオケ屋さんの平日昼間の料金が大変安いので、私はもっぱらこれを利用している。

最近、かなり様々なジャンルのカラオケもあり、オケを練習に使ったりするこもある。

練習に疲れたら、ちょっと唄ったりして。

ただし、カラオケ屋さんの部屋はライブな音空間が多いので、

まるで自分が上手くなったような錯覚をしてしまう。

この点をくれぐれも注意したい。

どのような状況においても、自分の音をよく聴くということは、とても大切なことだ。